

平成 29 年度 第 1 回 美祢市高齢者保健福祉推進会議 会議録（要旨）

日 時 平成 29 年 7 月 3 日（月） 13：30～14：40

場 所 美祢市民会館 大会議室

出席者 委員 16 名（欠席 2 名）

議 題

- (1) 会長及び副会長の選出について
- (2) 美祢市高齢者保健福祉計画・第 7 期介護保険事業計画の策定について
- (3) その他

議事要旨

1 開会

事務局にて進行

2 部長挨拶

大野市民福祉部長より挨拶

3 美祢市高齢者保健福祉推進会議委員委嘱状交付

4 議事

(1) 会長及び副会長の選出について

会長に札幌博義委員、副会長に弘利眞勝委員が選出される。

(2) 美祢市高齢者保健福祉計画・第 7 期介護保険事業計画の策定について

事務局から説明を行う。

【意見・質問】

○A 委員 この会議が時間的に短いので、これだけの資料をじっくり見て、意見を言うには時間がない。だからこの意見書はいいと思うが、提出はメールでよいか。

○事務局 問題ない。

○会長 どういう形でも、文章でもよければ、文章を書くがなかなか文章になりにくいという場合は、直に事務局に話をされてもいいと思います。

○B 委員 特に今回の体系のところ、既に地域包括ケアシステムの推進のところ、今回の第 7 期では大きく考えていかなければならない思うんですけども、私も前回、前々回と、この委員をやらせてもらってつくづく感じるのは、例えば、ヘルパーさんとか、そういう介護資源が非常に不足していることとか、あと医療との介護との連携とかいろんな問題を抱えていて、在宅で非常に暮らしにくい状況が起きているんじゃないかと思うし、ますますそれが強くなってきているんじゃないかと思っています。特に老老介護とか、そういう高齢化世代がどんどんふえていますので。

ですから、この地域包括システムというのは非常に重要だと思うんですけども、

これに関して、今の時点で例えばどういうことを議論されるのか、そういうことは何かお決めになられているというか、方向性について少しお伺いしたいんですけれども。

- 事務局 私のほうから大きいところだけ。ただいま言われました人材確保の関係の部分ですけれども、第6期の間の中で、資格取得の補助金を創設をしております。

また、この第7期に向けて、事務局としてもさらなる人材確保事業を進めていく必要があるということから、現在、検討はさせていただいております。内部で協議した上で、皆様方にその事業についてお示しをしたいと思っています。加えまして、医療と介護の連携につきましては、第6期から取り組むようになっておりますことから、医師会の方々、歯科医師会の方々等専門職の先生方、またほかの職種の方たちを加えまして、医療と介護の連携についても協議を進めさせていただいております。

これらについても、現状としては大きく取りまとめた結果というものが、今現在でまだお示しできかねるところで、このたびは示していないというのが現状になっております。第2回に向けて、ある程度の取りまとめた資料をお示ししていきたいと考えているところでございます。

- 会長 つけ加えますと、在宅における医療・介護連携については、国のほうが8つの大きな項目を挙げておまして、その8つの項目で、まだ美祢市でできていないところを今年度中にやって、連携がよりよくいくように少しでも準備をして、第2回からの地域包括ケアシステムの立ち位置について、みんなで準備していくということになると思います。

- A委員 意見書の4のところ「健康寿命の延伸のための」、「介護予防」が先です。「介護予防と健康づくり」と。私は、「介護予防」よりも「健康づくり」と、「介護予防」より「健康づくり」のほうが大事じゃないかと思うんですよ。健康づくりのために今まで美祢市がどういうことをなされているのか、この辺が非常に疑問です。よその県とか、あるいは国の施策等いろんなことを見たときに、もっとそこに健康づくりに、そして市民がそれに参加するようなそういう手だてをしなきゃいけない。これが一番大事だと思うんです。幾ら健康維持に気をつけても病気になります。そのときは仕方がない、あるいは認知症になったら仕方がない、そのときは介護をお願いしなきゃいけません。そうならないようにする施策を強く推進する必要があると思っています。そういうことをこの会議で、多くの時間を割いて議論すべきと思う。

- 事務局 ただいま大変厳しいといいますか、ありがたいと受けとめたほうがいいかと思うんですが、御意見をいただいたところです。

質問、意見書のほうの順番については、特段こう意図があって順番を変えたりとかいうところは全くございません。介護の関係の部署ですので介護予防が先

に来ただけというところで御理解をいただきたいと思います。

これまでの健康づくりの取り組みにつきましては、資料の2の1の32ページの部分に、第6期の取り組みと課題の中で、基本目標「生涯にわたる健康づくり及び介護予防の推進」ということで取りまとめをさせていただいているところです。この32ページのところに書いてある部分が、第6期の計画の中にこういった取り組みを行っていきますというところの中で、現状、第6期、まだ年度途中なんですけれども、これまでの結果を踏まえたところで、取り組み状況と課題ということで掲載をさせていただいているものです。

これから、意見書につきましては、長い時間をかけて審議していくということも大事なことであろうと思いますけれども、何せ皆様方、お忙しい方ばかりですので、ここで言えなかったものを基本的には書いていただいて、それらを事務局のほうでもう一回集約させていただいて、こう貴重な御意見につきましては、次の中に、この計画の素案の中にどんどん埋めていきたいというところは、考えております。

- C委員 私、このたび初めてこういう会議に出まして、様子がわからないのに私はちょっと思うんですが、今、A委員のおっしゃったことを私もずっと思っていたんですが、健康づくりというのは、テレビとかそういう報道で見ましたら、行政の方ですかね、何十人か、高齢者の60代、70代の方ですかね、認知症予防のそういったものに関するのをずっと続けていらっしゃって、どのぐらい改善したとかそういう地域を見まして、ああ、美祿市もこういうのがあったらいいなと思ったり、自分が知らないだけでどこかでやっていらっしゃるのかなとか。だからそういう現状を知りたいなと思っていましたので、それには、A委員が言われたことで私も同感です。

できれば、そういうことをちょっと教えていただきたいなと思います。していなかったら、積極的にそういうことを進めていくことによって、確実に何か認知症の数値もよくなっているのを見て、ちょっと、ああと感動しました。

- 事務局 介護予防の関係の教室、リーダー育成の教室、あと認知症の関係も、美祿市で全く取り組んでいないということじゃなくて、逆に周知不足といえますか、教室を開催してある一定レベルで、人は来ていただいております。

ただ、その結果の分析は行っていないところがございますので、お示しするものはないんですけれども、教室等につきましては、包括支援センターのほうで、1クール、3か月を1コースとして教室を行っています。

- C委員 それはどういうふうに、どういう活動ですか。目的の。

- 事務局 一般介護予防教室という枠組みの中で、高齢者の方が元気で過ごすということを目的にやっております。公民館ごとで行い、美祿地区の公民館に関しては、ちょうど1周回ったところです。

それで、各地区のその公民館でやられたグループが、今度は自主グループにな

られまして、そのまま今公民館で活動を続けていらっしゃるということで、健康づくり、介護予防のほうの教室をやって、あと自主的にできるようにというようなことをしております。

- C委員 その成果がどのくらいあるかというのがわかると、なおもっと皆さん参加を勧められると思いますし、あと今、介護までいかななくても、今、例えば私の地区では、地域の60代、70代の、80代の方が主体になって、3B体操とかいうのをしたりしています。それが5、6年になりますかね、もう続けております。

それとか、私、去年初めて美祢市の健康増進課の秋吉台のウォーキング。そういうのに年に3回、余り歩かないので足が衰えるのが一番こう、頭もですけれども、自分の母親も見ていまして、今、実家の母が90、それから今の姑のほうは96、どちらも頭はしっかりしていますけれども、足腰が悪いためにどちらも一人では住めない。私は同居していますから、96歳でも何とか住んで、家に在宅で済みますが、やはり足腰が悪いと思って、私は先を見るようで足腰はしっかりしておかないと、と思います。

それと、昨日、母の70年来の同級生が、時々何年かに1回お会いするんですけど、89歳、90歳ですかね、同級生で、足が歩く姿を見たら、私は60代なんですけれども、余り後ろから見ると変わらないぐらいに歩く。そして、その方は、お花を教えたり、数人にはお茶も教えていらっしゃるらしくて、小学校でもお花を教えたり、何か足腰がすごくしっかりしていて、いろいろ聞いたら、やっぱりそれなりに若いときから歩くことをしているんだなという感じ、もう本当びっくりするぐらいに、ああ目標ではないんですけど、すばらしいなと思いつつながら、同じ年でこうも違うのかと、きのう、昨日、感じました。

- 会長 はい、ありがとうございます。地域包括ケアシステム、国が大々的にやりますけど、国が求めているのは、自助・互助、自分たちの手足は自分たちで守れと、あるいは地域で守れと、その方法を勧めている。だから、行政ができる健康づくりの教室なりというの、やはり回数なり、あるいは地域なりが、ある程度もう限られてくるわけですね。マンパワーから言えば。だから何というんですかね、決して釣った魚を渡すというんじゃなくて、魚の釣り方を教えていこうという、後はその地域地域で自分たちで頑張ってやりましょうと。もし、もともとC委員の地区のように、もともとかなりいいことをやっておられたら、それも行政のほうにわかって、それを他の地域に。だから魚の釣り方のもっと物すごいまいところがあったら、それを今度は行政がほかの地域にそれを知らせて、それをやっていただくというですね。行政の役割としては、主にそういうふうな感じの役割になるのかなとは思っています。やっぱりその各地域地域でどういうふうに取り組みができるか、その中心となる方々が出てこられるわけなんですね。そういうのが結構大切になってくるし、

そういう中心になってやっておられる方々が出てこなければ、それを行政のほうで、うまくそういう方々を中心となってやられる方々をまた見つけて、うまく誘導していただくのも一つの手かなとは思っています。

○D委員 この資料をちょっと見させてもらって、65歳からの介護についての介護ケアというものと健康長寿という部分に、二つに分かれると思いますね。

介護ケアについては、国の支援でいろんな保険事業でやられるということで、ある程度充実していると思うんですよ。あと健康長寿について、どういうぐあいにして維持するかということが大事なんじゃないかなと思うんですけど、この資料の中の基本目標とかいうことがありますよね。「生涯にわたる健康づくり及び介護予防の推進」、目標というのは、現在、美祢市は健康な人は90%おりますよと。70歳では90%、80歳では70%から60%ぐらいに減ってくるということがありますが、これを数値化して、90歳でも85%にしましょうという数値化した目標を上げてもらいたいと思うんですよね。

でないと、目標に対して推進とは何のことかなと、状況分析であって、目標値がないから頑張りようがない。じゃあ目標値を上げるためにはどうしたらいいか、どういう手段を講じたら結果が出るんだと。とりあえず結果が出る。交通事故でもそうですね。交通事故が非常にふえた。じゃあパトロールしましょう。毎回毎回パトロールして、意識づけ、啓蒙活動をしましょうということでパトロールして歩いているというところがありますけど、長寿社会、長寿健康社会は、どうやったら皆さんの意識づけがあって、このような状態、目標値を上げていくことができるかということが大事なんじゃないかなと。

そういうことで、常々、切実なんですけど、人間は産まれたからには絶対死にます。死ぬからには、いつからその健康長寿に取り組めるかと。産まれたときからもう健康長寿に取り組んでいくということで、若いときからたばこを吸わないとか、酒は大酒を飲まないとか、運動は適度な運動をしましょうということで、65歳からじゃなくて若いときからそういう、お医者に行って初めて言われるんじゃないで、そういう啓蒙活動を通じて社会を、保険事業——今、保険の費用が高くなっているとかいうのもありますが、それを安くするとか、健康長寿、美祢市は長生きの市町村であるよということをアピールできるような目標値を上げてもらいたいと思います。

この基本目標1・2・3とありますが、全て数値化されていない。ただ推進とか何とかということが書いてありますが、そのような表現方法に改めていただきたいなと思っております。

○会長 なかなか数値化というのもですね。目標を出していくというのはいいことだと思いますし、事務局のほうも目標としての数値化、ある程度できれば出していただきたいと思いますが。

○事務局 今の委員の御意見のところですけども、今こちらに示しております

基本目標、6期のときの基本目標でございますが、これは大きな体系の中で目指すべき方向性のことです。

おっしゃられるとおり、目標に関しましては、さらにその中で、今回、取り組みと実績で、4章で示している中の一部記載がありますけれども、こちら個別の具体的な取り組みの中で、先ほど御意見が出た、例えばそういう介護予防教室の開催の状況であるとか、そういったものは数値化したものを目標として挙げて、それに向けて取り組みを行っていくというような、大きく目指すべき方向性の目標として、今委員がおっしゃられたような数値化できるものについては、具体的な取り組みの中でできる目標については、数値化できたものをお示しできればと考えております。

○D委員 取り組み回数の目標ではなくて、介護されている介護人数に対するケアが、ケア人数が少なくなるような、健康長寿の方が多くなるよという、結果的にですけどね。その目標を上げてもらったほうがいいんじゃないかなと思うんですね。公民館活動をことしは5回やったけど、来年は6回やりますよというそういうレクリエーションを、ことしは3回で、来年は4回にしますよというそういう開催事業の数値目標じゃなくて、中の人、人が主体なんですから、人の主体を主に考えてやってもらいたいなと思います。

○C委員 今、目標値を数値化するということで、皆さんそれぞれ健康度、体力が違いますので、それぞれ血圧とかいろいろ生活習慣病を抱えていらっしゃる方が、私も含めて多いと思うんですが、そういう今の健康状態から、その人が少しでもよくなったかどうかというのは、一月ごとにと何かそういうふうな、ここまでの目標に行ったかじゃなくて、その人の現在が少しでもよくなった。そのよくなったという数値でこうですよというのをこうずっと重ねていって、よくなったという数値がどんどんこうやって出ると、美祢市ってすごいなというふうになるんじゃないかなと思います。

○会長 ありがとうございます。主に健康増進課のほうの役割のほうに、今日は話が今のところ出ているようです。この今日やっている高齢者保健福祉推進会議という、もっと大きく美祢市で総合計画的なものが当然ありますよね。だから恐らくそっちの美祢市のもっと大きな会議での大きな計画の中に、恐らく入ってくるんじゃないかなとは思いますが、極端に言えば、もうがん医療のほうは、もう10代から行かにやいけませんし、そういうそれだけを考えなきゃいけませんし、認知症については、もう40代からもう始まっているわけですから、そのころから認知症の症状が発生しないように予防していかなくちゃいけませんし、もう若いころからそういうのを考えてもいいと、みんながやっていかなくちゃいけない時代だなと。だからその推進会議というよりももっと大きな、ちょっと大きな会議とかになってはくると思います。

○E委員 先ほど来からいろいろと意見を聞かせていただきありがとうございます

ます。また施設運営側からすれば、いろいろな問題をたくさん抱えているわけなんですけれども、先ほど来から話をしていらっしゃる内容のことは、家族介護者教室とか介護予防教室とかいろんなもので動いてはいます。細部的なものを用意しておりますけれども、そういう社会資源的なものを美祢市として取りまとめておられるでしょうけど、全市民にこれを紹介していただくと、健康づくりの一環となると思います。

また一方では、人材確保が非常に厳しい中で、本当にマンパワー確保の手だて、それからそうした対象の人たちの育成・養成、資格取得の仕方に補助するという方法も一方法でしょうけれども、そうした養成機関的なものも主として取り上げていくと幸いです。

また一方で、若者がどんどん減少していく中で、どのように対処していくかという意見の集約の方法とか、いろんな手だても教えてもらったら非常に助かると思いますが、いかがでございましょうか。

○事務局 健康づくりからまたちょっとずれたんですけど、先ほど地域のほうで触れたような意見とかぶるところがあるかと思います。できる手だてにつきましては、行政のほうもしっかりと対応していきたいと思います。

具体的にこういったものがないというものが、こういった事業に取り組んだほうが良いというような素案があれば、その辺についてもお示しいただければ、執行部としても大変助かるなと思っておりますので、そのあたりもよろしくお願ひしたいと思います。

○A委員 先ほど会長さんがおっしゃったのでと思ったので、言います。これは、この会議はここに書いてあるんですね。美祢市高齢者保健福祉推進会議でしょう。介護保険が主だということじゃないんでしょう。高齢者保健福祉推進会議なんでしょう。その中に介護保険のこともあるわけです。

○会長 そのとおりです。

○A委員 そうでしょう。だから、私どものような高齢者は、国は後期高齢とか、大変ありがたいようなものがあるかもわかりません。確かに後期高齢になったら無理がきかなくなりますね。私ももう80近くになりましたが、70の前半と後半では同じ30キロのものを抱えても、つい、ぱっと抱えられたのが、よいっしょとかこうなるなと思います。

それで、その高齢者がいつまでも、よくピンころと言われますが、元気であって余り皆様の、あるいは家族の手をとらないで御浄土に参る。私は浄土真宗ですけど、浄土じゃないです。それができるようにと行って、高齢者がふえたって何ぼ100になっても、110歳になっても、寝たきりで100になったって意味がないんですね。だから元気で100歳だと。

そのために、じゃあ行政として、一番のあれは個人だと思うんですよ。自分が自分の健康を守らなかつたら誰が守ってくれるんですか。ここにお医者さんも

いらっしやいます。お医者さんだってそれはどうしようもない。最後まで自分の力で、薬の援助をいただいて自分の力で生きるんだと。だからその自分の寿命を全うするまでに、元気で人のお世話にならないようにするにはどうするか。それには、毎日歩くとか体操をすとか、その健康を、減塩の食事をとるとか、そういうふうなことをお互いに気をつけなきゃいけない。それを市民の多くの方が実行するようにするために、行政としていろんな施策をされる。それには、私は大事なものは、市民がそれに参加しなかったら意味がないんです。

これはちょっとどうかと思ったので、私は美祢市民ながら非常に残念だと思ったんです。食推の方が減塩の標語を集められました。そして小・中、そして一般と、小学生なり中学生は、親と一緒に、そして学校で出しなさいよと、何百って出ました。市民から出たのは幾らだと、ここにいらっしやる方は御存じだと思っんです。

美祢市民は、2万5千何百人います。その中で一般が1万7、8千、大人がですね、それよりもっと多いかもしれない、わかりませんが、それでその減塩の標語に応募したのが、たったの21ですよ。こういう状況で、私はそのときにたまたま、手前みそになりますけど、ちょっとあれですが、その賞をいただいたときに関係の方に聞いたんです。これは市民全部で幾らあったんですか。たった21しか応募していない。そうなんじゃねと。それじゃあ。

ですから、今からいろんな、例えば、毎朝公民館を中心にしてラジオ体操をしましょう。私はもう長年来ずっとラジオ体操をどんなに寒い冬でも6時30分にラジオでやるというのを続けています。体にいいですね。絶対にいいですよ。皆さん御存じのように、そのラジオ体操をやる人はどういう方がいますか。大体土曜日と日曜日にいますね。これは続けることに意味があると。続けることに意味がある。

そうしたときに、そういうことに市民の皆さんも出ていただくようにするには、どうすればいいかということを考えなきゃいけない。それには、例えばポイント制というのがあると思っんですね。そしてポイントがたまったら、例えば50ポイントたまったら何かの10円の商品券がもらえとか、人間というのは欲があります。死ぬるまで欲求から離れることはできないんですから、そうです。なぜ、そういうことを思ったかといいますと、これはよその県では既にやっているんですね。インターネットを調べてみましたら、そういうポイント制でやって、それがたまったら、それで商品で渡すとかということをやって健康づくりに励んでいる。なるほどなど、それに私がはっと思っしたのは、市内のある店に、ある日にちに私はたまたま買い物に行ったんです。そしたらすごい駐車場がいっぱいだった。そしてその店にいる人は、ほとんどお年寄りです。何なの、今日年寄りばかりだと思ったら、私も年寄りですが、その日は年寄りはポイントが10倍ですと。だからお年寄りが多かったんですよ。そういう人間の欲

望というものをうまく利用して、健康づくりに取り組むようなやり方も一つの方法だと思っております。

だから、いろんなことを計画しても、それに市民が参加しなかったら全く意味がないんです。予算をつけて、それで行きましたらね、公民館でやりました。行ったら3人とか1人だと、そんなんじゃ全然、やっぱり市民が参加できるような、じゃあその方法はどういう方法がいいのかというのは、十分検討する必要がありますけれども、とにかく参加してもらわなきゃ幾ら立派なプランを立てたって、これはどうしようもないと思います。

○会長 何か商品券とかいろいろクリアしなきゃいけないところが出てはくるかと思いますが、欲の問題もこうありますし、何と申しますか、結構うまくやっている方法として、もう一つは、やって参加されている、あるいはいろいろなことをやっておられる御本人さんに何かメリットが、何かあげるというよりも、いろんなこれだけのことをやっていただくと、こう例えば日本であれば、地震等の被災者のところにこれだけ送りますよとか、そういう何かこう利他的なというんですかね、あるいはアフリカ難民の方にこれだけを衣食費として送りますよとか、自分が何かすることによってそういう人助けになるとか、そういうふうなので動機づけを行っていくというのも、そういうのもいい方法ではないかなとは思っています。

○F委員 先ほど来からいろいろと健康についていろんな話が出ております。私も民生委員の目から見て、健康増進、それからそういった健康づくりに積極的にやっている方は、ほとんど女性の方なんです。男性に参加を促してもなかなか男性の方が出てこない。これが一番の、ほかの地区はどうか知りませんが、私が担当しております秋芳地区なんかは、特にもう男性の参加率がすごく悪い。何の行事をしても一緒です。だから地区社協でも問題になっておりますけれども、とにかく行事をやるにしても、男性をいかにどういうふうにして引っ張り出すかと、これが一番の大きな課題になっております。このあたりを先に解決していかないと、今の健康増進も、女性の方は男性のほうの方が早く亡くなったら途端に元気になれるから、長生きされるんですね。元気なんです。その分、男性の方はなかなか65歳以上になると、高齢者になると、なかなかそういう外に出られなくなる。自分のところに田んぼがあって畑があったりしたら、そういったところには出られるけど、行事的なものには出られなくなりますので、そのあたりをどういうふうに促すかというのが、今後の課題になろうかと思っております。

このあたりは、行政と社協さんと我々の委員等を含めて、検討していかなければならない一番大きな課題になってくるんじゃないかというふうに思います。以上です。

○会長 はい、ありがとうございました。男性はなかなか、要は仲間がないと

なかなか全て行事に出ていかないというそういう特徴もあるので、まず男性が出て行きやすいような行事とか、その辺のところも必要になってくるかとは思っています。

ほかに御意見は。御意見は一応ないようですので、あと、いろんな気づき等がありましたら、意見書のほうで提案になるか、あるいは意見書に書きづらいということは、またそのまま事務局のほうへお話しされてもいいと思います。いろんな意見をいただいて、今日はまだ1回目ですので、いろんな意見を重ねて2回目、3回目をどんどん盛り上げてということをしていきたいとは思っています。それでは、協議事項のほうは終わりましたので、事務局のほうへお返しいたします。

5 閉会